

エピジェネティックな遺伝情報発現データの生体生命情報学

田口 善弘
中央大学 理工学部 教授

2010年5月29日

概要

ポストゲノム時代の中心テーマは、遺伝子の発現制御がいかに行われているかである。そのための計測手段は日夜進歩しており、膨大な計測データが日夜生み出され、リポジトリと呼ばれる公開データベースに蓄積され解析されるのを待っている。本講演では、「腫瘍に対する micorRNA の Transfection 実験」と「自己免疫疾患におけるプロモーター領域のメチル化」の2つを例にとり、主成分分析や t 検定と言った「使い古された」ツールが使いようによってはまだまだ役に立つことを示す。